

## 物流安全

### 2016年度目標

- 自責物流災害ゼロ
- 協力会社物流トラブル前年度比30%の削減
- 物流における年率1%以上の省エネを達成

### 2016年度結果

- 自責物流災害ゼロを継続
- 協力会社物流トラブル前年度比20%増加
- 物流における年率1%以上の省エネ未達成

### 2017年度目標

- 自社および協力会社の物流災害ゼロ
- 協力会社物流トラブル前年度比30%削減
- 物流におけるエネルギー原単位を1%以上改善(省エネ法の原単位算出方法に準拠)

▶ 業界No. 1の「物流安全と品質の確保」を目指して、物流の品質向上に取り組めます。

ダイセルグループの物流を担うダイセル物流(株)は「何時でも何処でも顧客の期待に応えるサービスの提供ができる会社としてその信頼と満足を得ること」を基本理念に掲げ、物流安全と物流品質の向上に取り組んでいます。

2016年度は、自責物流災害ゼロを継続して達成しましたが、協力会社での物流トラブル件数は増加し、目標は未達成でした。2017年度も輸送業務を委託している協力会社と共に、定期的で開催される安全品質協力を軸として、物流トラブルの低減を強力に推進していきます。また、協力会社も含めたドライバー技能教育や過去のトラブル事例を教訓とした対策事例教育などに取り組むことで、類似トラブルの再発防止を図ります。

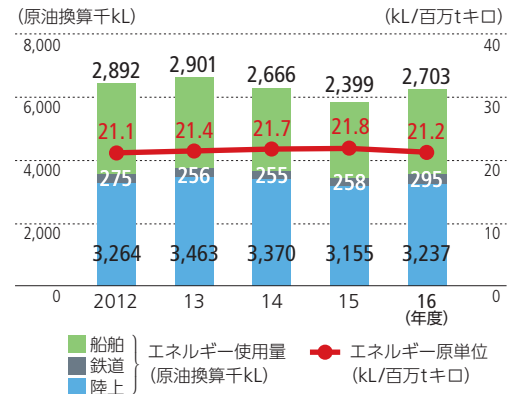
物流における省エネについては、内航船の輸送が増加し陸上輸送が減少したことで、エネルギー原単位指数<sup>1)</sup>は前年度に比べ約3ポイント改善しました。ただし、省エネ法で定められた年率1%以上のエネルギー使用効率の改善(努力義務)は未達でした。

一方、ラウンドユース<sup>2)</sup>については、2014年度から輸入品コンテナの品質要求が厳しくなったことを受け、ラウンドユース率<sup>3)</sup>は悪化しましたが、輸入品の出荷元や船会社と輸入品コンテナの品質の向上に努めた結果、2016年度には約68%まで改善しました。

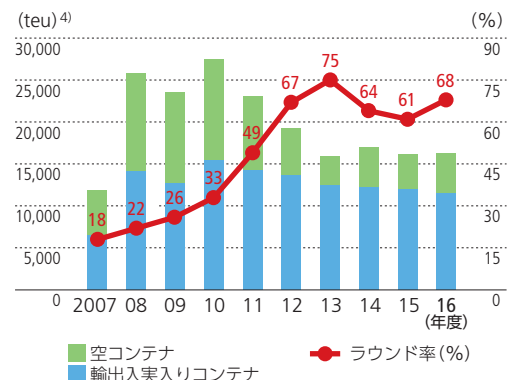
ダイセル物流(株)では、万一の物流における危険品の火災・爆発・漏洩等による災害に備え、協力会社と共同で緊急通報訓練を実施しています。2016年度も4回の訓練を実施し、災害発生時の対応力強化を図りました。

今後も引き続き、輸送業務を委託している協力会社と共に、トラブル低減や省エネに取り組んでいきます。

物流におけるエネルギー使用量とエネルギー原単位指数の推移



実入りおよび空コンテナ数とラウンドユース率の推移



### 用語解説

- 1) 原単位指数：一定量の製品を生産するのに必要とした資源量である原単位に関して、ある基準年を100としたときの指数をいいます。
- 2) ラウンドユース：輸出する際、空コンテナを準備せずに輸入で使用したコンテナを輸出用にも使用することをラウンドユースといいますが、空コンテナの準備返却の輸送にかかるCO<sub>2</sub>排出量を削減することができます。
- 3) ラウンドユース率：輸出コンテナ数に対して輸入で使用したコンテナを輸出用に利用できた割合をラウンドユース率としています。
- 4) teu：Twenty feet Equivalent Unitの略で、20フィートコンテナ換算個数のことです。